

行雲流水

No.285 令和5年4月13日発行

静かに「診る」「聴く」「想う」

校長 寒河江 正人

令和5年度の新学期が始まって、一週間。

各地では、**桜の花が満開。**

コフシ、スイセン、チューリップ。 そこここで、**春の花々**が咲き誇る。

さて、今、生徒たちの「**心の中**」は、どんなだろう。

さあ、想像してみよう。

新しい学年開き・学級開き。

新しい担任、新しいクラスメイト。

「**新たな出会い**」を経験した生徒たちの「**心の中**」は、どんなだろう。

さあ、想像してみよう。

新しい生活は、**期待と不安**でいっぱいかもしれない。

器用にうまく波に乗れる子、なかなか波に乗れない生きづらさを抱えている子。

いろいろな子がいる。**その多様性を包含する**のが、ここ「**学校**」である。

新学期。

かつて、先輩教師から「**黄金の3日間**」とか「**黄金の1週間**」と教えられたものだ。

「**一期一会**」。「**出会いは、最初が肝心**。」

だからこそ、**一日のスタート**は、

「**優しい笑顔**」で迎えたい。

「**温かい言葉**」で迎えたい。

「**落ち着き、安らぐ雰囲気**」で迎えたい。

「**そっと静かに見守ってくれる人**」がいる。

「**そっと優しく耳を傾けてくれる人**」がいる。

「**そっとさりげなく寄り添ってくれる人**」がいる。

その「**静かな安心感**」があれば、この1年間、がんばれそうな気がする。